

トピックス

★『ポストドクター・キャリア開発事業 シンポジウム 2013』

★ 第8回講義は3名の企業等の研究者による講演

★ 第2回インターンシップ報告会+懇談会

※このNewsletterは、東京海洋大学キャリア開発室からのお知らせです。
イベントのお知らせ、事業報告等をお届けしています。

国立大学法人 東京海洋大学
博士人材のキャリア開発

国立大学法人 東京海洋大学
キャリア開発室

電話：03-5463-0575
Email：career@m.kaiyodai.ac.jp
http://www.kaiyodaicareer.com/

●『ポストドクター・キャリア開発事業 シンポジウム2013』に参加

平成25年12月10日(火) 13:15~17:10 於 TKPガーデンシティ竹橋

主催：文部科学省 協力：(独)科学技術振興機構

今回は、標記シンポジウムへ参加することで、第7回「高度専門キャリア形成論」の講義に替えて実施されました。尚、学生は90分以上の参加で、単位取得のための出席要件を満たすものとされました。

■開会の挨拶

初めに、文科省科学技術・学術政策局の伊藤次長から開会の挨拶があり、これまで本事業に参加した36大学の活動に対して敬意と感謝が述べられました。続いて、文科省人材政策課の和田課長から、本事業のインターンシップ修了者は881人であり、実績を評価しているとお話がありました。

■基調講演

東京工業大学の三島学長から、グローバルリーダー教育院の取り組みについての紹介がありました。DCからいきなり養成しようとしても無理があり、入学当初から雰囲気身を付けさせることが必要で、その上で各施策を施すと、もの凄く効果があると説明されていました。

■博士人材の活躍事例の紹介

①スパイバー社 関山氏によるベンチャーの起業に関する事例紹介

専門分野を自分の中で決めてしまうべきではなく、企業ではどんな分野でも必要に応じてエキスパートになれる人が求められている等のお話がありました。

②ブラセラ社 野中氏による民間企業に就職した事例紹介

最初はアカデミアを目指していたが、大阪大学の課題提案型インターンシップで同社と出会い、専門分野であるタンパク質で社会に貢献したいと考えようになった等のお話がありました。

③大林組 末田氏による意外な業種へ就職した事例紹介

研究所ですら博士のことがよく分かっていないのが現実。企業から評価して貰うには、自分を過小評価せず自信を持って行動すること、自分の専門をアピールし過ぎないこと等のお話がありました。

■パネルディスカッションには海洋大OGの王 琦さんもパネラーとして参加



初めに、コーディネーターの富田氏およびパネラー6人の自己紹介とそれぞれの意見が紹介され、続いて「大学が考える博士人材の質」、「企業が考える博士人材の質」および「双方のギャップを埋める方法」等について話し合われました。

最後に富田氏が、「専門的な知識を習得するのは当然であり、その上で更に問題解決能力や柔軟な応用力等が必要とされている。」と述べて締められました。

●長期インターンシップの状況報告

■ DC 1名が現在研修中、またPD 2名から応募があり現在研修先の企業を選定中です。

■ あなたも、長期インターンシップに応募してみませんか?【平成26年度の募集準備中!!】

→ More details can be found on the website in English !!

●第8回高度専門キャリア形成論+インターンシップ報告+懇談会

平成26年1月23日(木) 16:20~19:00 於 品川キャンパス白鷹館2F

●今回は、企業等で働く3名の研究者の方々に交代で講演していただきました。

●企業トップの方を含む総勢45名の参加者があり、前回と同様の盛況となりました。

■開会の挨拶

最初に、キャリア開発室長の小川先生から挨拶があり、学生の皆さん、企業および研究機関の方々にたくさんお集まりいただいたことへのお礼が述べられました。引き続き、第1部「高度専門キャリア形成論」の講義および第2部インターンシップ報告会が開始されました。

■「博士号取得者が取り組む養殖技術開発」日本水産(株) 熊倉直樹氏

アメリカでのポストドクを経てニッスイへ就職し、現在はブリの早期天然種苗の研究をしていると自己紹介がありました。企業での研究は、研究開発の先にお客様や現場の人たちの顔が浮かび易い。現場の人に有難うと言われ、美味しいものを作っていただいた、と言われることが大事だと思う。今は、企業での研究が面白く、やりがいがあると感じていると話されていました。



■「海洋調査及び研究活動を通して培ってきたもの」(公社)海生研 高田兵衛氏

海生研では原発等の海洋環境放射能モニタリングを請け負っている。放射能が専門ではなかったが、海洋データの取り纏め方法は分かっていたので、たった2年で現在の研究に携わることができた。大学院で学んできたことを活かせば、分野が変わっても直ぐに対応することができる。また、そのことにより、新たな研究テーマが創出されることが重要だと話されていました。



■「天職(Call)は用意があるからCallされる」キユーピー(株) 有泉雅弘氏

入社時は微生物研究所に配属されたが、偶然にも隣の部署で、コレステロール抜きマヨネーズの開発に携わることができた。天職とは、やっていたうちに次第に見出して行くものだと思われている。博士を取った人は、自分の専門を活かして行こうと思っているだろうが、キャリアの成功とは「天職に就き、その使命を全うすること」ではないかと話されていました。



■オルテック・ジャパン社に就職した北島レナトさんのインターンシップ報告

主な研修内容は、新製品に関する情報収集、人と動物に対する影響の調査、競合他社の調査、および関連文書の作成等だった。また、国内の養魚場を訪れて一緒に仕事をする機会も得られた。実際に就職したのは、当初の希望とは違う営業職だった。複数の仕事を並行して進めることや、チームワークや、言葉の壁等は依然として大きなチャレンジだが、挑戦し甲斐のある仕事だと感じていると発表されていました。



■PD大岡剛欧さんのインターンシップ報告

三陸復興プロジェクトの一環で鮎の養殖に携わっており、この研究を通して三陸地方の復興に貢献できるようになりたいと考えた。研修を通して、水産業を支える為に多大な労力を掛けていることがよく分かった。また、岩手県の水産復興に向けて、現場が何を求めているかを知ることができた。今後の研究を現場にフィードバックして、活かしていけるようにしていきたいと発表されていました。



■最後に、竹内先生から開会の挨拶があり、第3部の懇談会の会場に移動した。

熱い思いを語って頂くためには時間が短かったかもしれないが、長期インターンシップは成果が出ているようなので安堵したと述べられて閉会しました。引き続き第3部の懇談会が開催され、企業の方々、講演者の方々および学生・ポストドクター達との情報交換会が今回も盛大に開催されました。

●キャリア開発室からのご挨拶

卒業や進学の時節ですね。春になれば新入生もやって来ます!

人生の節目の時期に、将来のキャリアを考えてみませんか。春まで、あと少しです!!

キャリア開発室一同

※ 要望や質問等は、お気軽にキャリア開発室までご連絡ください。

博士人材のキャリア開発

海洋漁業人材キャリア開発プログラム